
サルヨミの街

猿読み

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サルヨミの街

【Nコード】

N7217F

【作者名】

猿読み

【あらすじ】

猿山の猿読み、日が暮れ読む足跡、されど光りみえず自分みえず、食るきのかわ

チクタクと揺れる

また歯車が動き出す

天照らし星枯らす街は静かに唸る

雑音が聞こえぬようにかけるイヤホンは

風という音楽を消し

また殻に戻る

乾電池で動く回るベットタウン

夜の猿山で歌う猿読み

ライオンのいびきが名もない動物園を支配する中

己の感性だけを信じて

壁に跳ね返るコトダマと戯れる

嘘偽りで成り立つ猿社会

見ざる、言わざる、着飾るキレイ事

思っなくても歌う平和

思っなくても歌う愛

おままごとにはもう飽きた

大人になってもまた誰かの役

お父さん役、悪者役、いい人役

ヒビが入った仮面にはもうなんの役も回ってこないだろう

また半日かけて衰えた月が幻を見せる太陽を急かす

来店時間がせまる動物園

猿山の住人達はまた両足の補助輪に気が付かないまま

我がものの顔で山に登る

墓石と化したビルは

パンパンに膨れ上がり弧を描く

外れかけのネジ

赤錆の血が滲む

無理矢理とり外すそうともがくも

一人では立てないので仕方がない

補助輪なしでは生きてはいけない

サルヨミはまた影となり闇を待つ

日は眩しい過ぎとける思考は己を焦がす

何度言えど

意味のない言葉は地を這う

牙のない詩は何を伝える

ある人は言う、詩に意味を持たしてはならぬ

詩とは意味を見出だすモノではない

彼からすればそれはオナニ論を叫ぶ童貞野郎の戯れ事

猿が覚えれば待つのは死

汚い言葉だかこれがリアルな感性なので仕方がない

仕方がないで済ませるのが彼の悪い癖だ

猿読み月読みされど我飲み

掃きだめの猿山で歌い寝る

明日もまた見えぬ星へ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7217f/>

サルヨミの街

2011年1月16日03時30分発行